

須磨久善

Suma Hisayoshi

手術ではできぬことも ゴルフでは難しい

僕は心臓外科医ですが、ゴルフは手術に通じるものがあります。ただひとつ違うのは、手術は失敗できませんが、ゴルフは失敗がある点かな(笑)。心臓バイパス手術でも人によってすべて違いますし、画像によってある程度の予測をしつつも開けてみたら状況が違うこともよくあることです。ゴルフも同じです。同じコースでも天候、ライ……とひとつとして同じことはありません。そうした刻々と変わる状況に仕事の上



では対応できるのに、ゴルフではどうしてできないのか不思議でなりません。僕をゴルフで沈める殺し文句は「パットのときに「それは外科医だから上手いよね」でしょうか。

ゴルフの18ホールは、ごまかしのきかない点も一緒です。プレーをしているときは、インターバルの立ち姿、歩き方はもちろん、キャディさんにかける言葉、同伴競技者への配慮など、ゴルフの1日が気持ち良く過ごせるようにしていきたいと思っ

ているし、それがちゃんとできるゴルフアーマーこそが僕はタンディゴルフアーマーだと思っています。今までプレーした中で一番それを感じたのは渡辺貞夫さんでした。コースを回って1日笑って楽しく過ごし、日々の出来事をリセットさせます。精神のバランスを保つためにも、上手にリセットさせることが大切なんです。

こだわりと言えば、道具に対しては「弘法は筆を選ばず」という諺がありますが、手術道具に関しては「筆を選ばなきゃ弘法にはなれない」と思っています。だから「須磨モデル」というオーダーメイドの手術道具を作ってもらっています。これも一種ダンディズムになるのでしょうか。クラブ14本が相棒で唯一の味方ですからね。